



SUMS News

「第33回 碧鈴祭」を開催しました！

大学祭実行委員長

保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 2年 小林 舞也

11月11日(土)・12日(日)の2日間に渡り、白子キャンパスにて「第33回 碧鈴祭」を開催しました。ここ数年は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い規模縮小等により実施してきましたが、今回は各種制限を緩和し、ほぼ制限期間前の状態で実施することができました。

今年度の碧鈴祭は「笑真懸命 ～躍 Best performance～」をテーマに、「正真正銘」嘘偽りのないまっすぐな想いと、高い熱量で「一生懸命」打ち込んだ私たちらしい大学祭を運営する中で、ご来場者様はもちろんのこと、関わる全ての人に笑顔で過ごしていただけるよう取り組みました。

期間中は、2日間を通して各学科(専攻)の発表、クラブサークルによるステージや展示、学生等団体による模擬店の出店、実行委員会による来場者参加型企画を行いました。さらに、1日目にはパクユナ・moon dropによる音楽ライブ、サラナ保育園児による和太鼓演奏、2日目は王様戦隊キングオーガーショー、永野・東京ホテイソンによるお笑いライブなど、盛り沢山の内容で充実した大学祭となりました。

両日ともご参加いただいた皆さまに盛り上げていただき、ご来場者様・学祭スタッフともに多くの笑顔につつまれ、テーマ通りの碧鈴祭を成し遂げることができました。

今回は白子キャンパス初開催であることから、大学祭実行委員長として手探りの状態で不安やプレッシャーもありましたが、大変貴重な経験をさせていただきました。また、委員会の仲間や先輩・後輩、学科発表担当の学生、各クラブサークルの皆さんなど、多くの方のご支援により無事に終えることができました。

碧鈴祭の開催にあたりご協力いただいた本学教職員・学生の皆さん、その他碧鈴祭にご参加・ご来場いただいたすべての皆さまに厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

<学生課>



第33回碧鈴祭 学科発表

作業療法学専攻 レザークラフトなど3つの企画

保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 藤井 啓介

リハビリテーション学科作業療法学専攻では、毎年開催される碧鈴祭において、2年生が中心となり学科発表を行っています。今年の企画としては、①レザークラフト（革細工）、②遊び・活動を用いた作業療法の体験コーナー、③ポスター・機器展示の3つを行いました。いずれの企画も日々学生が学習している“作業療法”に関連するものでした。両日ともに大盛況で、用意してあったレザークラフト300個は品切れとなってしまう、学生は嬉しい悲鳴をあげていました。各コーナーでは学生が参加者の子どもから大人まで様々な年代の方々に丁寧に説明を行っている姿を見て、普段の学内ではみられない様子を見ることができ、それがとても頼もしい姿に映ったことが非常に嬉しく思いました。準備段階からうまく運営できるか、参加してくれる人はいるのか…と不安な様子であった学生も、終わった時には充実感を感じ、「楽しかったです！」と大勢の学生が成功体験を積んだようでした。参加者のなかには作業療法学専攻1年生もいたようなので、来年はきっとその学生達がさらに良い企画にしてくれると思っています。



臨床工学科 歓声が沸く医療機器体験と親子で楽しむ電子工作

医用工学部 臨床工学科 准教授 三浦 英和・助教 西川 祐康

臨床工学科の学科発表は、学生の活躍により、有意義なイベントとなりました。1年生から3年生までの有志が協力して、医療機器の展示・体験および電子工作教室を盛り上げました。

医療機器の展示・体験では、キャンパス間の機器搬送が大きな課題でしたが、学生は搬送業者との連携を図り、企画の再検討を行い、無事に開催へと導きました。当日は電気メスでの鶏肉焼き切りや上部内視鏡（胃カメラ）を用いた体験が、来場者にとって興味深いものとなりました。

電子工作教室で製作いただいたソーラーライトは、パネルに光が当たっているときに充電し、暗くなるとLEDを点灯させるものです。僅な部品をブレッドボードに挿すだけで回路を構成可能で、学生の丁寧な手伝いもあり、子供からお年寄りまで安全に失敗なく製作できました。また、ソーラーパネルの電圧を測定するなど実習の一端も体験いただきました。



学科発表を通じて、ご来場の皆様に医療機器の学び舎としての魅力を伝えることができたと考えます。コミュニケーションスキルや柔軟性、問題解決能力などの面で学生の成長を感じました。今後、臨床工学科は鈴鹿市と連携し小中学生向けの体験学習を提供し、地域社会へ貢献していきたいと思っています。ご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

看護学科 トロミ剤と視野狭窄メガネを使用した高齢者体験

看護学部 看護学科 2年 今井 俊輔・助教 林 暁子

看護学科では、トロミ剤と視野狭窄メガネを使用した高齢者体験を企画しました。高齢者になると様々な身体機能が低下することから、高齢者の方々がどのような状況で日常生活を送っているのか、その生活や環境の中でどのようなことに不自由さや困難を感じるのかを高齢者体験を通して気づいていただくことを目的として企画しました。トロミ剤体験コーナーでは、トロミ剤とドリンクを配布して、ご自身でトロミ剤を入れていただきました。これは、嚥下機能の低下による誤嚥を予防するため水分にトロミをつけることがあり、どのような食感になるのかを体験していただきました。また、高齢者視野体験コーナーでは、視野狭窄メガネをかけて塗り絵を行っていただきました。こちらでは、視野狭窄だけでなく緑内障の体験もでき、色の見え方や、塗り絵の配色の難しさなどに気づいていただけました。来場者の方からは、「普段の飲み物にトロミがつくと違和感がある」「トロミ剤は今でも使ってるよ」「視野が狭くなると行動一つ一つが怖い」「暗い色の区別が難しいね」などの感想をいただき、子供たちも「ゼリーみたいでおいしい」「思ってた色と違って面白い」と皆さんに楽しく学んでいただくことができました。2日間の来場者は合計702名と大盛況のうちに終えることができました。ご来場いただいた皆様ありがとうございました。

医療健康データサイエンス学科 学年の垣根を越え作り上げた学科発表

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 3年 上西 孝明

碧鈴祭での学科発表について、私たちは代表として次の3つのコンセプトで準備を進めました。1つ目に「先輩の意志を踏襲しつつも新しいものを作る」、2つ目に「学年の垣根を越えた交流の場を作る」、3つ目に「発表側と来訪者ともに学びのあるものを作る」です。

初めの会議ではアイデア創出に授業で学習した「ブレインストーミング」や「KJ法」を用いることで、後輩メンバーからも積極的な意見が出てきました。具体的には、前年度の内容に加えて「プロジェクションマッピング」や「生成系AI」、「ラズベリーパイとセンサー体験」、「サイコロで学ぶ統計学」など新しいアイデアが生まれました。

準備も各学年から参加したメンバーが積極的に貢献してくれ、多数のアイデアが実現でき、満足のいく学科発表となりました。特にプロジェクションマッピングや授業風景の動画製作を担当しただけでなく、過去の学科発表に皆勤である経験を基に相談相手となり、手間がかかる作業をしていただいた、3年生の伊藤圭佑君には本当に助けられました。



動画制作において飽きが来ないBGMの選定、字幕を考えた文字読み上げ、動画時間の調整などで長時間かけ格闘した経験を聞いており、楽しい経験と苦労話があったようです。

その結果、当日は昨年の4倍を超える1,000人近い方にご来訪頂き、好評の声を頂きました。新しいことを一から生み出すという貴重な体験ができ、様々なトラブルに見舞われながらも無事成功したのは、ご協力頂いた先生とメンバー全員の熱意によるものでした。この場を借りて、碧鈴祭の多くの関係者、来場者の方々に感謝いたします。

放射線技術科学科12名が「令和5年度第一種放射線取扱主任者試験」に合格！

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 中舎 幸司

8月23日(水)、24日(木)に実施された令和5年度第一種放射線取扱主任者試験に、放射線技術科学科の12名(4年生4名、3年生3名、2年生5名)が合格しました。合格率は10~30%程度と難易度が非常に高いですが、今年度は本学より12名の合格者という結果にとっても嬉しく思います。合格した皆様、本当におめでとうございます。

■放射線技術科学科4年 田場 裕介さん

私は2年生の頃に受験をし不合格になりましたが、4年生になり合格することができました。その鍵は勉強時間の作り方を身に付けたためだと思っています。2年生の頃は「時間がない」と言い訳をし、勉強に十分な時間を割けませんでした。しかし、学生の私に時間がないわけがないことに気が付きました。時間を作ろうと思えば、結構な時間を確保できたためです。一種の受験を通して「時間を作り出す」という、勉強のみならず、これから先の人生において大切なことに気付くことができたと思っています。これからも様々なことに挑戦していきたいと思っています！

■放射線技術科学科3年 浦永 楓さん

私は実習や学校の勉強を疎かにしたくなかったため、夏休みから勉強を始めました。試験まで約1か月しかないにも関わらず、当初は単純な単位の計算にも苦戦していました。そんな状況からでも合格することが出来たのは、授業や実習で学んだ基礎知識があったからだと思っています。次は国家試験に向けて更に勉強に励みたいと思っています。

■放射線技術科学科2年 吉田 羽須妃さん

第一種放射線取扱主任者試験の勉強を始めた頃は、化学や物理の計算問題を全然解くことが出来ませんでした。しかし、回数を重ねることで解けるようになっていきました。試験に合格することで、自分の勉強法に自信がつき、ますます勉強のモチベーションが上がりました。この結果に満足せずに、これからも日々の勉強を継続していこうと思います。



4年生合格者



3年生合格者



2年生合格者

卓球部の学生が「2023年度三重県卓球選手権大会」で優勝

卓球部 顧問・保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 島崎 博也



11月19日(日)に開催された「2023年度三重県卓球選手権大会」に卓球部の相坂綾乃さん(リハビリテーション学科 作業療法学専攻 3年)が出演し、女子ダブルス種目で優勝しました。

卓球部が2019年に活動を再開して以来の快挙であり、勉学や学外実習など大学生活における忙しい中でも、部活動を楽しみの一つとして地道に努力を重ねてきた結果として称賛に値します。引き続き、皆様方より卓球部の活動を応援していただけると幸いです。

現在部員が19名(男性10名、女性9名)であり、新規部員を募集中ですので、卓球が大好きな方や興味のある方は卓球部までご連絡ください。

国際的に名誉のある IMS Japan 賞「優秀賞」を受賞



11月1日(水)御茶ノ水ソラシティにて第8回日本IMS Japan 賞授賞式が開催され、本学と産学連携を行う learningBOX 株式会社との共同開発が、国際的に名誉のある IMS Japan 賞「優秀賞」を受賞しました。表彰式には learningBOX 社と、本学からは効果的な教材作成に関する情報共有や機能改善の相互提案等を行っている臨床工学科 三浦英和准教授が代表として出席しました。

IMS Japan 賞は、2016年に一般社団法人日本1EdTech 協会創設を記念して始まり、国際的に評価の高い1EdTech Consortiumの Learning Impact Award に範をとり、テクノロジーの教育利用に多大な貢献のあった優れた挑戦を顕彰しています。教育・学習のデジタルトランスフォーメーション(DX)を実現したもの、あるいは1EdTech技術標準の国内普及に貢献のあった作品や実践などが該当し、本年度は最優秀賞(1社)・優秀賞(2社)・奨励賞(3社)が選出されました。

■三浦先生のコメント

平素より先生方におかれましてはLMS研究部会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。受賞理由に“両者の密接な連携関係がうかがわれ、この点も高く評価された”とあり、learnigBOXを中心として教職員・学生・他社プロダクトとの連携を重視して進めてきた取り組みが評価されたと考えています。LMS研究部会では引き続き、学生ファーストの教育システムの実現のため尽力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

＜LSM研究部会＞

放射線技術科学科の教員が公衆衛生事業功労者知事表彰を受賞

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 中舎 幸司

11月22日(水)に、保健衛生学部放射線技術科学科の武藤裕衣教授が令和5年度公衆衛生事業功労者知事表彰を受賞しました。

この賞は、公衆衛生事業のために献身的活動を続けその功績が顕著であり公衆衛生事業に携わる者の模範となる者を表彰することにより、公衆衛生の向上に資することを目的に三重県知事が行うものです。

武藤先生は、平成14年に三重県診療放射線技師会理事に着任され、現在は副会長として県民の疾病予防、健康教育を中心とした社会貢献活動に率先して取り組んでおられます。またこれまで公益社団法人日本診療放射線技師会(以下JART)理事、日本放射線技師教育学会会長、JART臨床実習分科会会長、学術教育委員等を歴任し、技師の資質向上、女性技師の活躍推進、そして臨床実習指導の質向上を目指して来られました。この他にも平成20年より高校での特別授業講師や三重県消防学校での放射線災害に対する講師も務められています。これらの取り組みが高く評価され、今回の受賞に至りました。

今回の受賞となったことに対し、武藤先生からは「多くの皆様のおかげです。高木理事長をはじめ、豊田学長、藤野学科長、学科の先生方、関係各位に深く感謝いたします。ありがとうございました」とコメントをいただきました。

これまでの先生の活動が評価され、大変嬉しく思います。誠におめでとうございます。



理学療法学専攻の教員が執筆した教科書の中国語版が出版されます

保健衛生学部 リハビリテーション学科長 畠中 泰彦

2023年2月、姿勢・動作・歩行分析(羊土社:PT・OTビジュアルテキスト)が改訂、第2版が発行されました。発行後、Amazonリハビリテーション部門1位を獲得し、複数の理学療法士、作業療法士、義肢装具士養成校で教科書採用されています。本学の教員(畠中泰彦教授、中俣孝昭助教、伊藤和寛助教)と大学院生、臨床実習病院の理学療法士の先生方、6名で完成させました。臨床で多く経験する問題を網羅しており、臨床実習の準備に役立つ教材となっています。先に紹介した「臨床に役立つ歩行運動学」(運動と医学の出版社)の韓国語版に続いて3回目の外国語化となります。高齢者人口の増加と、これを支えるリハビリテーション関連職への社会的ニーズが、国内のみならず隣国でも高まっていることが背景にあるようです。海外でも多くの学生さんの臨床能力向上に役立つことを願います。



慢性疼痛高度医療人養成プログラムコース修了式を終えて

慢性疼痛教育委員長 丸山 淳子

2022年度後期1年次の講義と、2023年度2年次8月の体験型学習ワークショップの両方を受講し、単位取得した学生に対して、10月12日(木)に慢性疼痛高度医療人養成プログラムのコース修了式が行われました。修了者21名のうち、17名が参加しました。

豊田学長から学生一人一人に修了証が授与されました。その後、「三重大大学の学生と一緒にあって、慢性疼痛をテーマにしてディスカッションを行うことは、大変貴重な機会になったと思う。この経験を活かして 今後医療者として活躍してほしい。また将来就職活動の際にもコース修了したことをアピールしてほしい」とお話がありました。

修了生からは、「三重大大学および本学の他学科の学生たちと交流でき、一緒に多職種連携、チーム医療に必要なコミュニケーションについて学べる良い機会になった」などの感想がありました。

今年で8年目を迎えますが、全国的に見ても複数の大学が関係するこのようなプログラムが継続、維持されているのは例がありません。学生たちが積極的に参加してくれているのに加え、両大学の教職員が創意工夫を重ねている成果であると思います。今後も名実ともに本学の教育の特色になれるよう、努力していきたいと思っています。



SUMS多職種連携教育 Advanced コース修了式

多職種連携教育委員長 吉子 健一

11月13日(月)令和5年度SUMS多職種連携教育 Advanced コース修了式を行いました。修了者は、放射線技術科学科2名、管理栄養学専攻6名、臨床心理学専攻2名、鍼灸サイエンス学科3名、薬学科7名、看護学科2名の合計22名で、修了式には11名の学生が参加しました。

豊田学長から学生一人一人に「SUMS多職種連携教育 Advanced コース修了証」が授与されました。3年次の「事例で学ぶ多職種連携」受講者にはBasicコース修了証が委員会委員から、続けて4年次の「実践で学ぶ多職種連携」を受講するとAdvancedコース修了証が学長から授与されます。

授与式に続いて豊田学長から式辞をいただきました。春休み、夏休み期間中の選択授業を受講されたことに對する労いに続き、本授業が多くの教職員や医療機関によって支えられていることに感謝し、多職種連携の価値観を持ち続けて欲しいこと、昨今のタスクシェア推進でチーム医療や多職種連携への関心やニーズがますます高まっていることをお話しされ、今回授与された修了書を今後の就活等における自己アピールに大いに利用して欲しいと結ばれました。修了証を授与された学生においては、「事例および実践で学ぶ多職種連携」の受講を誇りに思い、得た知識、技術などを将来に活かしていただきたいと思っています。

今後も魅力ある授業の提供に努めるべく、委員会の役割と責任の重要性を再認識しました。本学の多職種連携教育のさらなる充実に努力して参ります。



2023年度 医療人底力教育アカデミックフェアを開催

医療人底力教育センター長 福田 八寿絵

1月11日(木)白子キャンパス講堂で「2023年度 医療人底力教育アカデミックフェア」を開催しました。本年度の授業は4年ぶりに対面で行い、学科間、教員間の交流を深めることができました。初年次の底力実践は全1年生対象必修科目で、約700名が履修し、学科横断で14クラスに分かれ共に学ぶ経験をします。アカデミックフェアでは、各クラス担当教職員の評価による優秀者14名、学生評価による優秀者1名が豊田学長から表彰を受けました。時間の制約から抽選で7名の優秀者にプレゼンをお願いしました。各クラスの代表が医療福祉や社会課題をテーマとし、収集情報を基に、分析・整理し、図表やイラストを効果的に入れるなど、問題意識をもち、意欲的に努力したことがよくわかる素晴らしい発表でした。

医療人底力実践Ⅳの「振り返り」では、「グループワークにおいて様々なスキルを磨く貴重な経験ができた」「協力とコミュニケーションが患者ケアやチーム医療での重要な要素であると感じた」「異なる分野の医療専門職を目指す仲間たちと協力して課題に取り組み、新たなアイデアの発見や問題解決力の向上につながった」などが学生の意見として挙げられました。

豊田学長からも「今後も学生の皆さんが、この医療人底力教育の経験を活かし、相互に切磋琢磨し、医療福祉専門職として成長していくことを期待します」とのコメントをいただきました。最後になりましたが、ご協力いただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。



市民公開講座を開催

救急救命学科 緊急時に役立つ英語をネイティブスピーカーと楽しく学ぼう！

10月21日(土)白子キャンパスにて、第2回救急救命学科市民公開講座を開催しました。「緊急時に役立つ英語をネイティブスピーカーと楽しく学ぼう！」と題し、本学科教員6名(司会進行：救急救命学科 平井聡子助教)とアメリカ出身で本学元英語講師のマイケルス・ジョーダン先生がタッグを組み実施しました。



1部では“I need an ambulance!”(救急車を呼んでください!)などの海外でも使える表現を練習し、2部ではゲームやリスニング形式で救急に関する英語を楽しみながら学んでもらいました。最後には、怪我をした外国人に国内で遭遇するという設定で、参加者に本講座で習った表現を使って救急車を呼んでほしいかどうかを問うシナリオを考えてもらいました。小中学生の2組の手が上がり、教壇に上がって発表してくれました。子供たちの勇気ある行動に拍手喝采が起こるフィナーレとなりました。

約60名の市民の皆様がご参加くださり、講座後のアンケート調査では、「参加型(Q&A)で楽しく、あっという間の1時間半でした」、「第2弾の開催待っています!」、「看護師をしているので、もし外国の方がみえたら英語を使えるように頑張りたいです」など、大変好意的な意見を多くいただきました。また、「救急救命学科があることも初めて知った」との記載もあり、本学科を知ってもらう良い機会になりました。 <救急救命学科>

インクルーシブ防災による地域づくり



11月18日(土)白子キャンパスにて、市民公開講座を開催しました。講師に元NHKアナウンサーの迫田朋子さんをお招きし、「インクルーシブ防災による地域づくり-高齢者・障がい者とともに防災を考える-」というテーマで講演いただきました。地域の方々、自治体役員、福祉施設関係者など、約70名が参加されました。

インクルーシブ防災とは、「誰一人取り残さない」防災を実現する考え方です。大分県別府市のインクルーシブ防災の取り組みや、熊本地震後の地域包括ケアの状況などを取材された経験や事例もお話いただき、参加者も熱心に聞き入る姿が見られました。講演後の質疑応答も活発に行われ、終了時刻間際まで質問をいただきました。

参加者からは、「災害時の高齢者・障がい者の避難を地域としてどう考えるか、どう取り組むか。自治体でも課題と考えていたので良い学習ができた」、「被災者の生の声が聞こえてくるような講演であった」、「インクルーシブ防災は障がい者のための考え方と思っていたが、すべての人のための防災を考えることであることがわかった」、「個別援助計画の必要性がよく理解できた。個別にどの支援・避難先が適しているのか考える必要があることも学んだ」といった声が聞かれ、盛況のうちに終了しました。 <企画広報課>

第8回日本薬膳学会学術総会・市民公開講座

日本薬膳学会学術総会事務局長
保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科長 山本 晃久

12月3日(日)白子キャンパスにて、「東西医学を融合した薬膳、日本の薬膳を考える」をテーマに第8回日本薬膳学会学術総会を開催しました。

市民公開講座では、村林新吾 医療栄養学科教授が「和の薬膳の変遷」と題して、日本料理の歴史や調理技術のルールについて具体的な方法を含めて解り易くお話されました。また、薬膳ランチセミナーでは、高木久代 代表理事より「心も体も温まる健美薬膳」と題して、薬膳弁当の料理内容について解説されました。

学術総会は、譚 興貴 世界中医薬学会連合会 薬膳食療研究専門委員会会長の来賓挨拶、高木代表理事による「日本薬膳学会からの提言」、教育講演として、王 桂鳳 鍼灸サイエンス学科助教による「薬膳素材における日本と中国の違い」、塚原丘美 名古屋学芸大学教授による「生活習慣予防の食事を再確認する」、特別講座として、大澤俊彦 愛知学院大学教授による「食品素材とその健康機能」、川西正祐 本学教授による「解明が進む漢方薬の抗がん作用」について大変興味深い内容のご講演をいただきました。

講演内容は12月18日(月)より海外にオンデマンド配信され、中国、台湾などの専門家の方々が視聴されました。市民公開講座では、末松則子 鈴鹿市長も応援にかけつけていただきました。企業展示も多数出展いただき、学会と共同開発した商品が即日販売されました。会員の方々は元より、学生も参加し、薬膳・食・漢方薬の最新事情について教養を深めた内容の濃い学術総会になりました。



第16回薬学部健康講座を開催

薬学部 薬学科 教授 定金 豊

10月28日(土)白子キャンパスにて、第16回薬学部健康講座を開催しました。今回は、「知って、なっ得、認知症！～認知症研究から予防を考える～」と題して薬学部 郡山恵樹教授にお話をいただきました。

200名収容の教室を準備しましたが席が足りず、臨時席を追加するほどの大盛況となりました。講演では、アルツハイマー型認知症の発症や進行のしくみや、先生の最新の研究成果である食事に含まれる「糖」との関連について分かりやすく解説していただきました。認知症に関係する老化物質の量が調理法で大きく変わるというお話には、多数の質問がありとても興味を持たれたようでした。220名を超える市民の皆様が真剣に学ぼうとする熱気を、教室の全体から感じることができた健康講座となりました。

健康講座の終了後、模擬薬局、模擬病棟、無菌調剤室、災害支援用移動薬局車両「モバイルファーマシー」を見学していただきました。とても混雑しましたが、素晴らしい施設とのお声をいただきました。また、とても良い天気でしたので、高層階からの鈴鹿市内の眺望も存分に楽しませていました。

薬学部健康講座は薬学部が新設された2008年から連続して実施しています。想定を上回るご参加をいただき誠にありがとうございました。次回も秋頃に開催する予定ですので、皆様の参加をお待ちしております。



祝！10周年記念 薬学部同窓会

薬学部 薬学科 助教 及川 弘崇

薬学部が創設されてから16年が経過し、1期生が薬剤師として社会に羽ばたいてから10年が経過しました。薬学部同窓会は1期生の藤戸淳夫氏が会長として牽引されており、今年10周年を迎えました。

11月26日(日)に10周年記念の薬学部同窓会が白子キャンパスで開催されました。当日は三重県薬剤師会会長の西井政彦氏と三重県病院薬剤師会会長の松田浩明氏より祝辞を賜り、西井氏からは第8次医療計画・地域医療構想に関して、薬剤師の職能を生かした活躍の場を広げるために益々の努力をしているという頼もしい挨拶の上で、本学から旅立っていく薬剤師への大きな期待のエールをいただきました。また、松田氏からは病院薬剤師不足の視点からの病院薬剤師確保計画の策定のお話があり、本学卒業生への大きな期待の言葉をいただきました。



本学からは大井一弥薬学部長より本学薬学部の歴史について、懐かしい写真を織り交ぜた講演があり、大学と同窓会との連携強化の必要性と今後の発展について挨拶を賜りました。



懇親会では、懐かしい顔ぶれと共にニューフェイスである卒業生のご子息達も参加しており、10年という時の中でも各々が着実に歩みを進めている姿を見ることができ、懐かしさだけではなく頼もしさや安心感も垣間見ることができました。

本学を巣立った薬剤師の皆さんが社会で活躍し、評判を上げております。次の10年、20周年記念の薬学部同窓会が今から楽しみです。

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設として登録されました

保健衛生学部 医療栄養学科長 三浦 俊宏

保健衛生学部 医療栄養学科は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程としての登録申請を行い、養成施設として登録されました。令和6年度の入学生より適用されます。これにより所定の科目・単位を修得して卒業すれば、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得できるようになります。

食品衛生管理者は、食品衛生法によって定められた特定の食品や添加物を製造または加工する事業所において、その製造または加工を衛生的に管理させるために、施設ごとに配置しなければならない有資格者のことです。また、食品衛生監視員は全国の主要な海・空港の検疫所において、輸入食品の完全監視及び指導、輸入食品等に係る微生物検査と理化学検査、検疫感染症の国内への侵入防止などの業務に従事します。

パープルリボン活動に参加

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 印南 京子・助教 若杉 悠佑



11月26日(日)に開催された「パープルリボンウォーク&セミナー 2023 in 津」に医療栄養学科より3年生8名、4年生4名と共に参加しました。三重大学医学部附属病院では、「三重パープルリボン」として膵がんに対する地域啓発活動および膵がん患者・家族に対する教育・支援活動を全国に先駆けて行っています。今年は管理栄養士を目指す学生もぜひ参加をとお声がけいただき、栄養診療部の先生方とのコラボ商品「パープルドーナツ」の販売を行いました。

パープルドーナツは、紫いもパウダーを使ったドーナツで、本活動のテーマ色「紫」にこだわりました。いかに綺麗に紫色を引き出すか試行錯誤し、化学の知識を活かしてレモンがほんのり香るドーナツに仕上げるのができ、たくさんの方にお手に取っていただきました。参加者が持ち帰ったお菓子をきっかけに、膵がん撲滅に向けた三重パープルリボン活動がより多くの人に伝わることを期待しています。

今回の活動を通して、栄養診療部の先生方から管理栄養士としての心構えをお聞きすることができ、非常に貴重な経験となりました。また、実際に参加者と触れ合えたことで、疾病と向き合われている方々をより現実的に考える機会となりました。膵がん、そして膵がん患者さんを知る機会として大きな意義を持つパープルリボンでの経験を、学生がこれからの勉学の中で活かしてくれることを期待しています。

医療栄養学科 交流球技大会を開催

保健衛生学部 医療栄養学科 助手 秋永 桃直

12月9日(土)医療栄養学科1年生～4年生、教員に参加を募り医療栄養学科交流球技大会を開催しました。1年生2名、2年生1名、3年生1名、4年生14名、教員5名の合計23名が集まり無事開催することができました。競技は卓球・バドミントン・ソフトバレー・ドッジボールをしました。準備の段階から学生の交流が見られ嬉しく感じました。



卓球はチーム戦にして2年生・4年生・教員で楽しく交流していました。ソフトバレー・ドッジボールも学年・教員混合で競技をし、全体的に盛り上がり学生同士のみならず教員との交流も深まりました。

新型コロナウイルス流行前は臨床検査学科(旧:臨床検査学専攻)と合同で球技大会・BBQをしていましたが、今回は医療栄養学科の学年間交流を目的として開催しました。国家試験の勉強に励む4年生にとって息抜きとなりとても良い球技大会になりました。

企画から開催までの時間がなく、人数が集まらないかと心配をしていましたが、楽しんでいる学生の姿を見て開催ができてよかったです。学年間の交流会がなくなっていたので、来年も開催して交流の場を設けられたらと考えています。4年間勉強だけでなく、様々な経験をする事で大学生活を楽しんでいただけたらと思います。

臨床検査学科 BBQ大会を再開

保健衛生学部 臨床検査学科 教授 西岡 淳二

10月14日穏やかな土曜日の午後、臨床検査学科恒例のBBQ大会を開催しました。毎年この時期に開催してきましたが、令和2年から、コロナ禍で中止になり、4年ぶりの開催になりました。このBBQ大会は2年生が計画し、日程調整から燃料・器材・食材の調達、テントの設営まですべてを準備します。1年生～4年生の100名を超える学生と教員・助手が参加し、焼肉を食べながら、交流を深め楽しい時間を過ごしました。

このBBQ大会は、「国試に合格して臨床検査技師になる」という目標を共有し、情報交換をし、交流を深めることを目的としています。この日、4年生は国試対策、就職活動、卒業研究発表を控え、ストレスいっぱいの中でのBBQ大会でしたが、少し解放され明るい表情が印象的でした。一方、3年生は年明けに予定されている臨床実習について、4年生から様々な情報を収集する様子が見られました。また、1年生は臨床検査技師を目標に「全員で国試合格」を目指す臨床検査学科の雰囲気を感じ取り、学修に取り組んでくれることと思います。



BBQ大会に参加した上位学年の学生は、コロナ禍で制限された学生生活を過ごし、同学年の仲間たち、先輩/後輩、学生/教員と交流の機会も少なく、厳しい学生生活を体験しました。このBBQ大会は、大学生時代の1コマとして彼らの心に残ることと思います。

桜の森病院にて遺族会「さくらの会」が開催されました

保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 中西 健二

10月29日(日)桜の森病院にて遺族会「さくらの会」が開催され、25家族38名の方にご参加いただきました。これまで桜の森病院では、看護職の皆さんを中心にファミリールーム「こもれび」を開設し、患者様のご家族ならびにご遺族への心理的支援を行ってきました。しかし、ご遺族の方々にお集まりいただき、自由に想いを語り合う交流の場となる遺族会については、コロナ禍の影響により開催を見送ってきました。ですが、2023年5月にCOVID-19が5類感染症に分類されたことを受け、開院から約2年半後により遺族会「さくらの会」を開催することができました。



「さくらの会」入口に設置したウェルカムボード

渡部秀樹院長によるご挨拶の後、私は心理職の立場から「大切な人を亡くした時—心と体に起こる変化—」というテーマでお話をさせていただきました。続いて、ご遺族の皆様と病院スタッフでいくつかの小グループを作り、近況や今のお気持ちなどを語り合う交流の時間を設けました。「まだまだ悲しみは募るばかりです」と話される方や、「家でじっとしているばかりじゃいけないと思って、最近ようやく外出するようになりました」とおっしゃる方など、それぞれ語られる想いに共感を持ってお聴きする時間が流れました。その後のフルートとハープによるミニ演奏会ではやさしい音色と歌声に耳を傾け、最後に全員で合唱して、会は終了しました。今後も緩和ケア病院の大切な役割の一つとして、「さくらの会」を継続して開催していきたいと考えています。

桜の森白子ホームでの「園芸福祉」活動

保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 合田 盛人

11月22日(水)医療福祉学専攻1年生14名が、桜の森白子ホームの開設当初から運営している「桜の森のうえん」にて、利用者さん4名と職員1名と一緒に「園芸福祉」の活動をしました。

利用者さんと学生がコミュニケーションを取りながら、9月に種まきした大根、ピーマンの収穫とチューリップの球根100個を植えました。収穫を楽しみ、また、来春には咲き誇るチューリップを想像して会話も楽しみました。

作業に参加してもらった利用者さんからは「楽しかった。ありがとうございます」「また来てくださいね」と言っていたが、学生からは「施設の利用者さんは農業について詳しく、どの草を抜くべきか、どれを収穫するべきかを話してくれて、楽しみがあることは良い事だと改めて思った」「実際に施設の方と一緒に体験したりコミュニケーションを取ったりすることで、認知機能に良い効果があると思った」という感想がありました。



園芸福祉とは、「花・果物・野菜・その他の緑の栽培や育成、配植、配置、交換・管理・運営・交流などを通じて、皆で幸福になろうという思想であり、技術であり、運動であり、実践」です。今後も桜の森白子ホームと連携して、多世代交流、高齢者の生きがいづくりなどをめざし「園芸福祉」に取り組んでいきます。

岡田文化財団より桜の苗木を寄贈いただき、植樹式を行いました

12月12日(火)県内に桜の名所を増やそうと、三重県「さくらプロジェクト」を進める公益財団法人岡田文化財団から100本のソメイヨシノの苗木を本学へ寄贈いただき、岡田文化財団の辻晴芳理事と本学の高木純一理事長が白子キャンパスにて植樹を行いました。

三重県「さくらプロジェクト」は、桜を育て、人々が集い、笑顔が咲く場を増やすため、岡田文化財団が令和5年度からの3年間で県内45か所に5,000本の桜の苗木を寄贈する取り組みです。



植樹式で高木理事長は、「白子キャンパス構内には旧NTT研修所の頃に植樹された桜の古木が多数あります。今回、白子キャンパス・附属桜の森病院・桜の森白子ホームの周囲に寄贈いただいた苗木を植樹することで、桜の古木と若木による新たな桜の名所となるのを期待します。隣接する鈴鹿市防災公園『桜の森公園』と本学が一体となり、春には多くの方に『桜の森』を訪れて楽しんでもらいたいです」と感謝を述べました。



ボランティアセンター 車いす清掃ボランティア

11月17日(金)桜の森白子ホームで、実際に使用されている車いす約30台を学生5人と教職員2人、そして白子ホームのスタッフの方にもお手伝いいただき清掃活動を行いました。

ボランティアに参加した学生は、理学療法学専攻の教員から車いすの部品の名称やメンテナンス時に注意が必要な部分の説明などを受けながら、座面や背もたれ、キャスターやブレーキなどの細部にわたって清掃を行いました。実際に作業を進めると、座面の裏や部品の隙間など想定外の箇所が汚れていることに驚く学生が多くいました。

参加した学生からは「車いすをメンテナンスすることの大切さを学んだ」、「利用者の方に気持ちよく使っていただきたいと思った」といった感想が聞かれました。

今後も利用者の方が安全に車いすを使用できるよう、継続的に活動を行ってきたいです。



学友会

「クリスマス会」を開催

学友会・保健衛生学部 放射線技術科学科 1年 山本 真代

12月8日(金)千代崎キャンパスにて、学友会主催の「クリスマス会」を開催しました。新型コロナウイルスの影響で中止していたため、4年ぶりの開催となりました。多くの学生が初めて本学のクリスマス会に参加し、豪華な料理とクリスマスケーキに喜びの表情を浮かべ、賑やかな声が飛び交っていました。

特に、都道府県ビンゴゲームはチームで協力してビンゴを完成させるためコミュニケーションが必要となり、お互いの出身を知るきっかけや初対面の方と話すきっかけになったり、どのチームも積極的に声を掛け合う姿が見られました。

クリスマス会だけではなく様々なイベントが中止されてきたなか、少しずつですが以前のようにイベントを開催できるようになり、今回のような学生同士の交流を深める機会が増えていることを嬉しく思います。

また、今回のイベントは学友会執行部の1年生が運営をしました。先輩にサポートしていただきながら、お互いに意見を出し合い「4年ぶりにクリスマス会を復活させたい」という思いの下、準備をしてきました。企画書作成から当日まで上手い出来ないこともありましたが、参加してくださった多くの学生の方々の楽しんでいる表情を見ることが出来て、開催して良かったと思いました。最後に、今回のクリスマス会を開催するにあたりご協力いただいた皆様、ご参加いただいた学生の皆さん本当にありがとうございました。



こころのクリニック「親子のためのAfter Xmasコンサート」を開催

こころのクリニック院長・保健衛生学部 医療福祉学科 教授 大谷 正人

12月26日(火)こころのクリニックにて、「親子のためのAfter Xmasコンサート」を開催しました。こころのクリニックでは2017年の開院以来、毎年年末に「親子のための年末コンサート」を開催しています(途中新型コロナウイルスの影響で中止あり)。さらに、今年は8月に「サマーコンサート」も開催したため、通算6回目の開催となりました。

当日は、私がチェロを演奏、当院(心理師)兼学生相談室の平山木綿子先生がヴァイオリンを演奏、当院(事務・心理師)兼学生相談室の半野杏果先生が曲目を紹介しました。またピアノの演奏には、鈴鹿大学の久保友加里先生に友情出演をしていただきました。

格調高いクラシック音楽から馴染みのあるアニメの曲まで幅広い選曲で、コンサートを聴きにいられた患者様からは「先生方によるコンサートを毎年楽しみにしている」という声が多く寄せられており、これからも続けていきたいと思っています。



学生相談室通信



学生相談室長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

あなたの周りには、「あの人ちょっと苦手だな…」と思う人はいませんか？その人を避けてしまったり、逆に、キツく当たってしまう、そんな人です。表向きは仲良くしているけれど、実はムカツク相手かもしれません。もし、心当たりがあったとしても心配しないでください。実は、こういうことは誰にでも起こりうることなのです。

なぜこういうことが起こるのか、その理由は色々あるのですが、まずは、相手の性格や考え方が、自分とあまりにも違う場合があげられます。自分と違う人というのは興味をそそる存在であると同時に、戸惑いや不安を引き起こす存在でもあります。そして、私たちは不安になると、その人に対して攻撃的になったり、避けてしまったり、逆に過度に接近する場合があります。次に考えられることとしては、その人が自分に似ているところ、特に自分が嫌だと思っているところを持っている場合です。私たちは、相手の中に、自分の嫌な部分を見つけて、とても不安になるのです。これらのことは無意識のうちに起こる場合が多く、自分では気づきにくいので、感情のコントロールが難しく、結果的に、相手を深く傷つけ、自分自身も傷ついてしまいます。有効な解決策は、自分だけで抱え込まないことです。自分のこころのザワザワを、スルーせずに、あなたの話を冷静に聴いてくれる人に相談することです。学生相談室では、友人間のちょっとしたトラブルの相談もお受けします。そしてもし、あなたが攻撃されていると感じたら、勇気を出してできるだけ早く相談してください。



「おフランスでパリパリおにぎり」

おじさんは、しばらく前からお昼のお弁当を愛妻「おにぎり」にした。^{なん}何たって、食べやすいし、冷たくても美味しく食べられるからだ。パリパリの焼き海苔を巻いて食べるんだ。そうそう、パリパリで思い出したけど、今フランスのパリでは「おにぎり」が大ブームなんだってね。パリのおにぎり屋さんは、行列ができるほどの人気なんだとか。トマトやオリーブ、サーモン、チーズといったフランスらしい食材を使うなど、日本人にはちょっと珍しいフランス版おにぎりもあるらしい。スーパーでも売ってるけど、値段はかなり高く日本の2倍以上、1個600円なんていうのも珍しくないんだってさ。

パリの行列の店の看板が「おむすび権米衛」だった。もう1軒は「おにぎり屋ギリギリ」、ほかにも店はたくさんあるらしい。だけど、どうなってんだ？「おにぎり」と言ったり「おむすび」と言ったり。混乱しないのかね。日本でも同じだけだね。

おじさんは「おにぎり」って言ったけど、「おむすび」とか「握り飯」^{にぎりめし}とか言うもんね。コンビニでは定番商品になったけど、呼び名はまちまちなんだって。ファミリーマートやデイリーヤマザキの商品名は「おむすび」で、ローソンやミニストップでは「おにぎり」、セブンイレブンでは区別されていて、食べる時に海苔を巻くものを「おにぎり」、それ以外の商品は「おむすび」というらしい。

過去を調べると、奈良時代の本に「握飯」^{にぎりめし}の記述があるというし、室町時代にはお伽噺^{とぎばなし}『おむすびころりん』が出来たと言われている。江戸時代になると「握り飯」と言う言葉がたくさん出てくるそうだ。江戸時代の俳人小林一茶は、「雲の峰^{たつ}/立や野中の^{のなか}握飯^{にぎりめし}」という俳句を残している。

昔から「おにぎり」とも「おむすび」とも言ってたんだね。単純に考えれば、「握る」と「結ぶ」は同じ意味があるんじゃないの。「拳を握る」^{こぶし}と言え、手のひらを閉じること。「結ぶ」というと、繫げると言う意味があるけど、ほかに「閉じる」と言う意味もあるようだ。みんな知ってるでしょ。幼稚園や保育園でやったお遊戯^{ゆうぎ}。「♪む～す～んで、ひ～ら～い～て」っていうやつ。「むすんで」は手のひらを閉じてたでしょ。やっぱり、そうだよね。手の平でご飯を握るから「おにぎり」、手の平を結んでご飯を固めるから「おむすび」っていう理解でイんじゃないの。

そうだ、おじさんも「むすびの1番」^{しゅれ}っていう洒落た名前のおにぎり屋さんをパリにオープンして、大勝負を掛けてみるか～？でも、相撲で「結びの1番」^{すもう}っていったら、1番最後の取り組みのこと、これで閉じますよということだよ。ギャー、それじゃ倒産しちゃうかも～？ダメじゃん。やっぱり、「おにぎり1番」にするわ～

第15回イルミネーション点灯式を行いました

11月30日(木)白子キャンパスにて、第15回イルミネーション点灯式を行いました。昨年に続き今年も多くの方にご参加いただき、点灯式ではカウントダウンに合わせて過去最多の12万個のLEDが白子キャンパスを鮮やかな光で包みました。

今年度はサラナ保育園の園児の皆さんによるハンドベル演奏や、本学ボランティア学生によるトーンチャイム演奏、津市在住のソプラノ歌手 村林浩代さんによるクリスマスソングのリサイタルを行いました。リサイタルではパール三重合唱団と本学学生・教員による合唱もあり、イルミネーションの光の中で、参加者の皆さんと一緒に音楽を楽しむことができました。

点灯式の事前準備や当日の司会・進行、募金の呼びかけや駐車場警備などを行った学生ボランティアは、学科や学年の垣根を超えて仲を深める良い機会となりました。点灯式とあわせて、ヘルプマークの啓発活動への募金の呼びかけを行い、17,124円もの募金が集まりました。皆さんの温かいご支援とご協力、ありがとうございました。

また、点灯式の最中にNHK津放送局「まるっと！みえ」の生中継が行われ、学生5名と高木久代副学長が出演しました。番組内の「津・鈴鹿ってええやん！」のコーナーで出演し、放射線技術科学科・鍼灸サイエンス学科・救急救命学科・薬学科・看護学科の学生と高木副学長が、それぞれの「鈴鹿医療科学大学のええやん！」を紹介し、中継を締めくくりました。

とても寒いなかでの点灯式となりましたが、地域の方々にも足を運んでいただき、実施できたことを感慨深く感じるとともに、大変嬉しく感じます。参加いただきました皆さまに感謝申し上げます。

＜ボランティアセンター＞



行事予定

2024年2月～5月

2月1日(木)～2日(金)・5日(月)～6日(火)
後期・冬期定期試験と解説
10日(土) 医療科学研究科 学位審査発表会
13日(火)～17日(土)・19日(月)～20日(火)
後期・冬期追・再試験
29日(木) 卒業判定会議
3月2日(土) 大学院2期入試
7日(木) 一般選抜B日程・総合型選抜5期
8日(金) 学位授与式
22日(金) 進級判定会議
23日(土) 春のミニ・オープンキャンパス
29日(金) 在学生ガイダンス・在学生健康診断
30日(土) 在学生健康診断
4月1日(月) 新入生オリエンテーション(学科)・
在学生健康診断

4月2日(火) 入学式
3日(水) 新入生オリエンテーション(全体)・
在学生健康診断
4日(木) 新入生健康診断
5日(金) 前期・春期授業開始
13日(土) 新入生健康診断
20日(土) 在学生健康診断
27日(土) 補講日
29日(月・祝) 月曜授業日
5月6日(月・振替休日) 創立記念日
11日(土) 補講日
25日(土) 補講日
28日(火)～31日(金)・6月3日(月)
春期定期試験と解説

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。